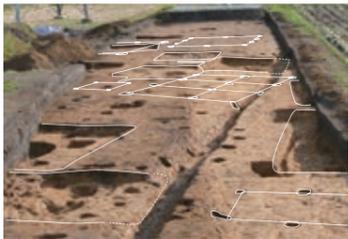


奈良・平安時代 方向をそろえて並ぶ建物跡



建物跡が方向をそろえて建てられていることがわかります。



平安時代の竪穴建物跡もみつっていますが、奈良時代に比べて数が減少しています。



遺跡の東西には古代の役所跡とされる城生堀跡や、それに関連する遺跡が分布しています。

⑫西岡遺跡(加美町)

名蓋川の河岸段丘上に立地する奈良・平安時代を中心とした集落跡です。調査でみつかった竪穴建物跡や掘立柱建物跡は、ほぼ真北の方向に軸をそろえているものが多く、ある程度の計画性がうかがえます。周辺でみついている同じ時期の役所跡や寺院跡などでも、真北を軸とする建物の配置がみられることから、それらと関連を持つ集落であった可能性があります。

高台の集落からみえる古代東北の情勢



遺跡からは東に約3km離れた古代の陸奥国府である多賀城を望むことができます(西から撮影)。



溝は東西約63mにわたってみつかりました。上幅は0.5~1.7m、深さは0.3~0.5mです。



竪穴建物跡は10棟みつかりました。規模は、長軸で2.7m~3.7mと小規模です。

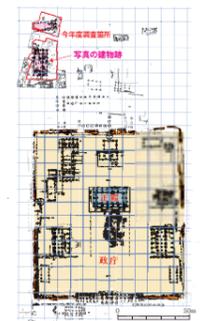
⑬羽黒前遺跡(利府町・仙台市)

七北田川左岸の小高い丘の上に立地する、奈良時代後半から平安時代初め頃の集落跡です。丘陵頂部から斜面にかけて小型の竪穴建物跡が密集しており、その北側斜面には敵の侵入を防ぐためとみられる溝が巡っていました。律令国家と蝦夷の対立が激化する時期の緊迫した情勢を反映した遺跡の可能性があります。

多賀城政庁北側の大型建物



建物の本体に当たる身舎の北と東に甬が付く建物跡です。規模は南北18.7m、東西9.6mです。



建物跡は、西辺が政庁城西辺の延長上に位置し、正殿を基準とする9m間隔の方眼に重なるように配置されています。

⑭国指定特別史跡 多賀城跡(多賀城市)

多賀城跡は、奈良・平安時代に東北地方の行政と軍事を担った陸奥国府が置かれた役所跡です。調査では、城内の中枢をなす政庁の北側で、平安時代の掘立柱建物跡がみつかりました。建物跡は大型で甬が付く格式の高いもので、政庁と同じ建物の配置計画によって建てられており、政庁との密接な関係がうかがえます。

大地震からの復興を支えた古代の窯跡



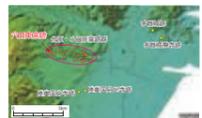
窯跡の火を炊く部分です。壁面には瓦と粘土を交互に重ねて貼り付けており、壁面を補修しながら何度も瓦を焼いていたことがわかります。



窯のイメージ図

⑮六田東窯跡(仙台市)

台原・小田原丘陵の南斜面に立地する平安時代の窯跡です。遺跡周辺は市街地化に伴う造成などにより古くから土地の改変が進み、多くの窯が破壊されたと考えられていましたが、今回の調査で初めて窯跡2基が確認され、大量の瓦が出土しました。貞観11(869)年の大地震からの復興に伴って多賀城や陸奥国分寺に置く瓦を焼いた窯跡の一つと考えられます。



台原・小田原丘陵は陸奥国最大の窯業地帯で、陸奥国分寺や陸奥国府多賀城の瓦を焼いた窯跡が多数みつかりました。

江戸時代 解明すすむ登城路の姿

⑯国指定史跡 仙台城跡(仙台市)

城跡東側にある昇門跡の南側で登城路の一部を調査しました。その結果、槲形虎口(周囲を四角形に囲み防御空間とした入口)の西壁に築かれた石垣がみつかりました。近代以降の盛土や道路に埋もれていた石垣が発見され、登城路の姿が明らかになりつつあります。



登城路の石垣はおおよそ2段分が残っていました。規模は長さ約6.9m、高さ約0.7mで、石材の大きさは40~60cmです。



今年度調査区(赤枠)の位置図

協力(五十音順): 石巻市教育委員会(中沢遺跡)、岩沼市教育委員会(かめ塚古墳・原遺跡)、加美町教育委員会(西岡遺跡)、栗原市教育委員会(源光遺跡)、仙台市教育委員会(高江遺跡・仙台郡山官衙遺跡群・六田東窯跡・仙台城跡)、多賀城跡調査研究所(多賀城跡・大吉山瓦窯跡)、東北学院大学辻ゼミナール(合戦原古墳群)、利府町教育委員会(羽黒前遺跡)

このパンフレットのPDFデータはホームページからダウンロードできます(「宮城県発掘調査パネル展」で検索)。

発掘現場から文化力 埋蔵文化財は、国や地域の歴史と文化の成り立ちを明らかにするうえで欠くことのできない国民共有の財産であり、また、これらを解明するうえで発掘調査は必要不可欠なものです。このため、文化庁では「発掘現場から文化力」のロゴマークを作成し、広くロゴマークを推奨し活用することで、国民や地域住民に埋蔵文化財や発掘調査に対する正しい理解と協力を促進することを目的としています。背景のカラーは発掘調査にふさわしい茶系系統を使用しています。

令和3年度 宮城の発掘調査パネル展

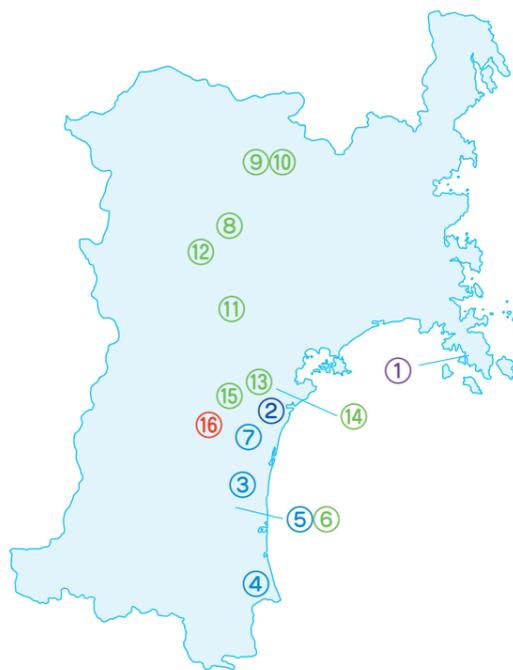
宮城県教育庁文化財課

宮城県には、旧石器時代から明治時代まで約6,200箇所の遺跡があります。これらは私たちの祖先が残した貴重な遺産であり、大切に保存し後世に伝えていくことが私たちの責務と考えております。

県教育委員会は、これらの保護と活用に全力をあげて取り組んでおりますが、やむを得ず開発によって姿を消す遺跡については、発掘調査を実施して記録に残しています。

このたび、令和3年に行われた発掘調査のなかで、特に注目すべき遺跡や東日本大震災の復興事業に伴って調査された遺跡をパネルで紹介いたします。この機会に遺跡に親しみ、文化財保護への御理解を深めていただければ幸いです。

今回の展示にあたって快く御協力いただきました各教育委員会及び機関に対し、この場を借りて厚くお礼申し上げます。



| 時代 | 年代 | 日本の主な出来事 | パネル番号 |
|------|-------------------------------|---|---------------------------|
| 旧石器 | 約800~700万年前 約4万年前 | アフリカで人類が誕生する 後期旧石器時代が始まる | |
| 縄文 | 約1万6000年前 約5000年前 | 土器・弓矢が出現する 三内丸山遺跡(青森県)で集落が営まれる | ★① |
| 弥生 | 紀元前400年頃 | 東北地方で米作りが始まる | ★② |
| 古墳 | 紀元後400年頃 | 豪族が盛んに古墳を造る | ③④ |
| 飛鳥 | 607年 645年 | 推古天皇、小野妹子を隋に遣わす(遣隋使) 大化の改新 | ⑤⑦ |
| 奈良 | 710年 724年 752年 780年 | 平城京(奈良市)に都を移す 多賀城が創建される 東大寺の大仏が完成する 蝦夷の反乱で多賀城が火災にあう | ⑥ ⑧ ⑨⑩⑪ ⑫⑬ ⑭⑮ |
| 平安 | 794年 869年 894年 1167年 | 平安京(京都市)に都を移す 貞観大地震で多賀城が大きな被害を受ける 遣唐使の派遣が停止される 平清盛が太政大臣となる | |
| 鎌倉 | 1192年 1274・1281年 | 源頼朝が征夷大将軍になる 文永・弘安の役(元寇)が起こる | |
| 室町 | 1338年 1467年 | 足利尊氏が室町幕府を開く 応仁の乱が起こる | |
| 安土桃山 | 1590年 1600年 | 豊臣秀吉が天下を統一する 仙台城の築城が始まる | |
| 江戸 | 1603年 1611年 | 徳川家康が江戸幕府を開く 慶長奥州地震津波で仙台平野が大きな被害を受ける | ⑯ |
| 明治 | 1868年 1876年 | 明治維新 明治天皇が東北を巡幸する。 | |

★印は、東日本大震災の復旧・復興調査

東日本大震災からの復興と遺跡調査(1)

復興事業の促進と遺跡保護の両立を目指して

東日本大震災の発生から11年が経過しました。震災により甚大な被害を受けた沿岸市町では、土地区画整理、道路改良、防潮堤建設などの大規模な復興事業や、被災した個人住宅、企業の再建が進められてきました。

こうした復興事業の計画地に遺跡が含まれることが多くあります。そのため県では、被災地の一日も早い復興と地域のかげのない歴史的遺産(遺跡)の保護の両立に取り組んでいます。

◎復興事業に伴う発掘調査の進捗状況

復興調査は平成24年度から本格的に開始し、迅速に進めた結果、大規模な復興事業に伴う調査は令和3年度で終了しました。現在は主にこれらの成果をまとめた報告書の作成を進めています。

・調査遺跡数 ※令和4年1月現在。仙台市を除く。

| 事業別 | 対象遺跡数 | 試掘・確認調査 | | | | | | | 本発掘調査 | | | | | | | 計 | |
|------|-------|---------|-----|-----|-----|----|----|-----|--------|-----|-----|-----|----|----|-----|---|----|
| | | H24~27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3~ | H24~27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3~ | | |
| 住居関連 | 67 | 64 | 1 | | 2 | | | | | | 21 | | | | | | 21 |
| 道路関連 | 87 | 46 | 10 | 10 | 8 | 9 | 1 | 3 | 35 | 4 | 3 | | | 2 | 2 | | 46 |
| ほ場関連 | 113 | 82 | 9 | 13 | 6 | 2 | 1 | | 12 | | 2 | | | | | | 14 |
| 漁業関連 | 40 | 8 | 3 | 17 | 6 | 5 | 1 | | 3 | 1 | | | | | | | 4 |
| 堤防関連 | 15 | 7 | 2 | 2 | | 3 | 1 | | | | | | 1 | | | | 1 |
| その他 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 323 | 208 | 25 | 42 | 22 | 19 | 4 | 3 | 71 | 5 | 5 | | 3 | 2 | | | 86 |

復興事業と係わりがある遺跡数323。試掘・確認調査を経て開発による遺跡への影響が避けられない場合には本発掘調査へ。本発掘調査86遺跡。(約1/4)

*復興調査の実施にあたっては、従来の発掘調査基準を弾力的に運用し、調査期間の短縮を図っています。

東日本大震災からの復興と遺跡調査(2)

◎復興調査にかかわる整理作業と報告書の刊行状況

復興調査報告書は全体で104冊となる見込みで、令和2年度までに85冊が刊行されています。残りの18冊のうち14冊は令和3年度に刊行される予定となっています。

令和4年度以降に整理作業を継続する遺跡は、南三陸町久保貝塚、石巻市中沢遺跡、多賀城市山王遺跡、仙台市高江遺跡の4遺跡です。これらの遺跡では、令和2・3年度に本発掘調査が完了し、多くの遺構・遺物が発見されています。

現在、報告書の早期刊行に向けて整理作業を進めています。

| 自治体 | 復興調査報告書刊行数一覧 ※令和4年1月現在。 | | | | | | | | | | | 対象数 | |
|------|-------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|
| | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | | R4 |
| 気仙沼市 | | | | | 1 | 3 | 1 | 4 | 3 | 3 | | | 15 |
| 南三陸町 | | | | | 2 | 1 | 1 | | | | | | 5 |
| 石巻市 | | | | | 1 | 3 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | | 7 |
| 女川町 | | | | | | | | | 1 | | | | 4 |
| 東松島市 | | | | | 2 | 1 | 1 | 2 | | | 1 | | 7 |
| 松島町 | | | | | | 1 | | | 1 | | | | 2 |
| 塩釜市 | | | | | | 1 | | | 1 | | | | 2 |
| 利府町 | | | | | 1 | | | | 1 | | | | 2 |
| 七ヶ浜町 | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 4 |
| 多賀城市 | | | | | 2 | | | | | | | | 2 |
| 岩沼市 | | | | | 4 | 2 | | | | | | | 6 |
| 亶理町 | | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 山元町 | | 1 | 3 | 2 | 1 | | 1 | 1 | | | | 7 | 16 |
| 登米市 | | | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| 内陸 | | | | | | | | | | | | | 2 |
| 大崎市 | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 1 |
| 奥州市 | | | | | | | | | | | | | 2 |
| 仙台市 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 11 |
| 宮城県 | 1 | 1 | 2 | 4 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 15 |
| 合計 | 1 | 2 | 5 | 6 | 20 | 15 | 12 | 7 | 7 | 11 | 14 | 4 | 104 |

南三陸町久保貝塚からは、縄文時代晩期後半(約2,900~2,500年前)の遺物が多く出土しています。現在は遺物の図化や骨の種の判別などを行っています。土器などの遺物は、報告書に掲載するために拓本や実測図の作成を行います。出土した哺乳類などの骨は、部位ごとに分け、標本と見比べて種を判別します。

縄文時代 海辺に暮らす縄文人の食生活

①中沢遺跡(石巻市)

【復興調査】県道建設事業

牡鹿半島の海に面した丘の上に立地する縄文時代前期(7,000年前～5,500年前)の集落跡です。丘陵の北側斜面に広がる遺物包含層(ゴミ捨て場)から、土器・石器や獣骨・魚骨が多量にみつかりました。丘陵の上で生活していた人々が、周辺の海や山の豊富な資源を食料として暮らしていたことがわかります。



縄文土器や石器と一緒にマグロの骨が多量に出土しました。集落で食べられ、骨やヒレは捨てられたとみられます。



右の丘陵の上(住宅地)に集落があり、斜面にゴミを捨てていました。



マグロの背骨の一部が繋がった状態で出土しました。

弥生時代 水害に見舞われた弥生時代の水田

②高江遺跡(仙台市)

【復興調査】JR貨物ターミナル駅移転事業

七北田川右岸の低地に立地する弥生時代(約2,000年前)の遺跡です。調査では、洪水等による土砂で覆われた水田跡が発見され、土器や石器がみつかりました。水田は復旧されずに廃絶しており、人々の生活を脅かすほど被害が大きかったことがわかりました。



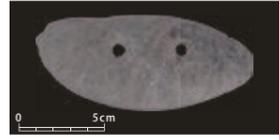
水田は畦畔(あぜ)で細かく区切られています。1枚の大きさは南北5m、東西8m程度です。



水田を覆う土砂 水田耕作土



水田が土砂で埋まっているのがわかります。



稲穂を揃むのに使った石包丁が出土しました。

古墳時代 古墳の規模や形が明らかに



黒い土の広がり古墳を囲む周溝で、内側の茶色の土との境が墳丘(古墳の高まり)の端部です。

③県指定史跡 かも塚古墳(岩沼市)

JR東北本線沿いの水田の中にある、4世紀に造られたとされる前方後円墳です。墳丘の周囲を調査した結果、古墳の周溝などがみつかり、本来の古墳の大きさを知ることができました。現在の墳丘は、後世の削平によって細長い柄鏡形をしています。本来は幅の広い鍵穴形で、全長が約9mも長かったことがわかりました。



墳丘の長さは約48.5mと想定されます。

古墳の埋葬施設を発見



6号墳(南から撮影)。墳丘の規模が直径約7.6m、高さ約2.6mの円墳です。

④合戦原古墳群(山元町)

前方後円墳1基と円墳7基で構成される古墳群です。6号墳では、墳丘頂部で棺の跡がみつかり、上から掘った墓穴に長さ約1.7m、幅約0.6mの木棺を直接据え、遺体を安置した後、棺を粘土で覆って埋葬したと推定されます。古墳群の年代・埋葬方法及び被葬者を検討する上で貴重な手がかりが得られました。



木棺が朽ちて陥没した痕跡です。くぼみには上を覆っていた粘土が流入しています。



今年度は4号墳と6号墳を調査しました。

飛鳥時代 県内最大級の竪穴建物跡

⑤原遺跡(岩沼市)

阿武隈川左岸の自然堤防上に立地する、飛鳥時代の集落跡及び奈良・平安時代の玉前駅家または関と推定される遺跡です。調査では、7世紀後半頃の竪穴建物跡が発見されました。1辺約9.7mを測る大型の建物跡で、同時期のものとしては県内最大級の規模です。駅家または関が置かれる前から、大きな集落が存在していたことを示す重要な成果となりました。



竪穴建物跡の四隅と屋根を支えた柱の位置に人が立っています。



隣の竪穴建物跡と比較すると、倍以上の大きさであることがわかります。



遺跡は阿武隈川の左岸に立地し、水運の重要地点でもあります。

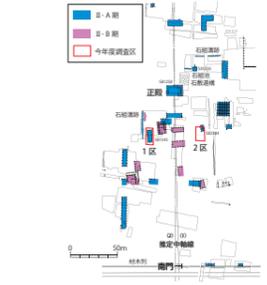
飛鳥時代 謎が深まる中枢部の建物配置

⑦国指定史跡 仙台郡山官衙遺跡群(仙台市)

多賀城創建以前の役所・寺院跡です。初期陸奥国府と考えられるⅡ期官衙の中枢部を調査し、1区で西脇殿と推定される建物跡を確認しました。また、脇殿は正殿を中心として左右対称に配置されていると想定されることから、対称となる範囲に2区を設けましたが、予想に反して東脇殿に当たる建物跡はみつからず、想定を再検討する必要が出てきました。



西脇殿と推定される建物跡です。規模は南北12.7m、東西4.4mで、方向はほぼ真北を向きます。



赤枠が今年度調査区。西脇殿と正対する位置では、建物跡がみつかりませんでした。

奈良・平安時代 大溝の内部は駅家の中心域か?



大溝跡は東西約17m、南北約13mにわたって見つかりました。規模は上幅1.8～2.0m、深さ0.7mです。



大溝は一度掘り直されています。

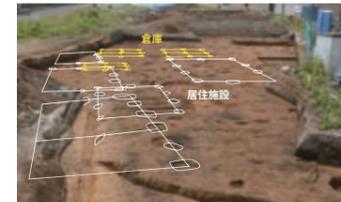
⑥原遺跡(岩沼市)

駅家は地方と中央との連絡にあたる使者に馬や食料を提供した施設。関は国境や要所で人や物資の往来を取り締まった施設です。調査では、真北方向から東にほぼ直角に曲がる大溝跡がみつかりました。この大溝跡は、まだ位置が特定できていない駅家・関の中心域を囲む可能性があります。駅家や関の調査例は全国でも希少で、今後の調査成果が期待されます。



調査で見えられた大溝跡の南東側が中心域になる可能性が考えられます。

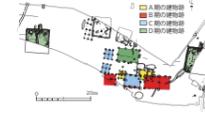
有力者の居宅を発見?



掘立柱建物跡は最大のもので約9m×5mあります。平面形が長方形の建物跡は居住施設、正方形の建物跡は倉庫と考えられます。

⑨源光遺跡(栗原市)

築館丘陵から延びるなだらかな丘の上に立地する奈良・平安時代の集落跡です。調査では、奈良時代後半を中心とした複数の掘立柱建物跡と竪穴建物跡がみつかりました。これらの建物跡は概ね規則的に配置されており、主に竪穴建物跡で構成される一般集落とは異なった特徴を持つことから、調査区周辺は有力者の居宅と考えられます。



掘立柱建物跡は同じ場所で何度も建て替えられています。



柱穴の土層断面です。穴を掘り、柱を据えて周りを埋め戻していることがわかります。

土器をつなげて煙道に

⑪彦右工門橋窯跡(大衡村)

奈良・平安時代(8世紀後半～9世紀後半)に土器や瓦を生産した遺跡です。調査では、作業場または住居として使用された竪穴建物跡が4棟見つかりました。建物跡のカマドには、底を抜いた土師器の甕を土管のようにつなげて煙道としたものがありました。煙道は地面をトンネル状に掘り抜いたものが一般的であるため、希少な発見となりました。



カマドの煙道(煙を屋外に排出するトンネル状の施設)の長さは約1.5mあります。



カマド模式図

多賀城創建期の瓦を生産



①屋根の棟の端を飾る板瓦で、ハスの花がモチーフです。②「下」の文字は、「下総(千葉県)」「下野(栃木県)」などの国名を略したとみられます。③屋根の軒先に使われる瓦です。



瓦は窯から掻き出された炭や焼土が積もった灰層からみつかりました。

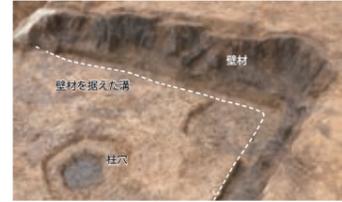
⑧国指定史跡大吉山瓦窯跡(大崎市)

江合川左岸のゆるやかな丘の斜面に立地する、多賀城や多賀城廃寺などの瓦を焼いた奈良時代前半の窯跡です。調査では、8基の窯跡と多数の瓦がみつかりました。なかでも鬼板瓦は、多賀城などの主要な建物に書くために焼かれたもので、過去の出土例も少ないため、貴重な発見となりました。また、丸瓦にへら書きされた漢字一文字は、瓦の生産を担った国名を示していると思われる。



窯跡は8基みつかり、斜面にトンネル状に掘り込まれています。複数の窯が同時に操業していた可能性があります。

焼けたからわかる建物の構造



壁材として幅約20cmの縦板を並べていたことがわかりました。



焼土は屋根材を覆うように堆積しています。

⑩源光遺跡(栗原市)

奈良時代の竪穴建物跡がみつかりました。建物内には、赤く変色したブロック状の焼土が多量に堆積しており、これらは屋根に貴かれていた土が焼け落ちたものと考えられます。また、壁材に使われた板材や屋根材の丸材が炭化し、そのままの形で残っていたことから、建物の具体的な構造を知る貴重な手がかりとなりました。



竪穴建物跡の断面模式図

用語解説 ◆**国府**: 飛鳥～平安時代、中央政府が全国に設置した国の役所です。政府の任命した役人(国司)が派遣されて政治を行いました。 ◆**土師器**: 土師器は浅く掘りくぼめた土の中で比較的低温(700～800度)で焼かれた素焼きの土器で、赤褐色をしています。 ◆**竪穴建物**: 地面を正方形や円形に掘りくぼめ、建物の床面と壁をつくり、柱を立て屋根をかけた半地下式の建物です。